

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	音響数値解析小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	
設置期間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・音場境界条件に関するベンチマークの検討 ・自主コードの使用評価と事例作成 ・チュートリアル開催 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	主査：坂本慎一（東京大） 幹事：富来礼次（大分大），安田洋介（神奈川大） 委員：朝倉巧（清水建設），石塚崇（清水建設），大嶋拓也（新潟大），大鶴徹（大分大）， 奥園健（大分大），廣澤邦一（日東紡音響エンジニアリング），佐久間哲哉（東大），鈴木 久晴（日本エヴィクサー），豊田政弘（関西大），星和磨（日大），堀之内吉成（京大），横 田考俊（小林理研）	
設置 WG (WG 名：目的)	音響数値解析ソフトウェアの開発・普及WG 目的：比較的容易に解析プログラムを生成するためのインターフェース群の整備を進める。作成した API および、API を利用したサンプルコードを Web サイトで公開する準備を進める。また、音響数値解析小委員会と密に協力しながらチュートリアル等を実施することで、音響数値解析の技術普及を図る。	
2013 年度予算	120,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s26/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	1.
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. ハンズオンセミナー 『はじめての音響数値シミュレーション』 参加者数 20 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 波動数値解析における境界条件について、音響インピーダンスの計測方法に関する議論を行い、複数機関からのデータを収集することができた。 2. チュートリアルとして、ハンズオンセミナーを実施することができた。 3. 目標に対し、着実に成果を挙げている。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 音響インピーダンスデータの更なる収集 2. データの整理方法の検討 3. 音響数値解析分野に役立つデータベースとしての公表方法の検討

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
 *表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は、建物周辺や都市域の音環境を予測する数値解析手法に関し、設定条件等と精度や有効性の関連、使用に際する制約等の学術基盤を網羅した確固たる基盤の整備を目的として活動を進めている。</p> <p>2013年度は、計算精度を大きく左右する境界条件に関する議論を進め、その結果に基づいて、本小委員会の委員が所属する各研究機関において複数の代表的な音響材料の境界条件データを計測した結果を収集しデータベースを作成する作業を開始した。その作業と並行して、境界条件の計測法に関する情報交換を行った。データの収集は順調に進んでいる。</p> <p>音響数値解析技術の進展情報を発信し、さらに多くの研究者が利用可能な技術とするための啓蒙・普及活動として、傘下の響数値解析ソフトウェアの開発・普及WGにより、ハンズオンセミナー「はじめての音響数値シミュレーション」が実施された。このセミナーは、受講生が具体的なプログラムコードを自らのPCを用いて実際に学ぶことを企図したもので、昨年度行った技術の紹介に特化したチュートリアルに続く実践的なセミナーである。当初の予定通りの参加者を得、技術の普及を図る目的を達したものと評価する。</p> <p>以上のように、学術基盤の整備、学術情報の発信や技術の普及に活動を展開できたことから総合評価をAとする。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。